



検査情報月報9月号 ▶ 概要版 ◀



衛生研究所のInstagram
フォローお願いします！

令和8年9月発行

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症検査結果(2025年)

▶ この感染症は、溶血性を示すA群等のレンサ球菌によって引き起こされます。基礎疾患の有無に関わらず、突然の四肢の疼痛、腫脹、発熱などで発症し、その後急激に症状が進行して、ショック状態から死に至ることがあります。

主な結果 ▶ 市内医療機関から保健所へ届出のあった33例について、菌株の検査結果を報告します。
▶ A群が16例で最も多く、次いでB群が10例、G群が7例でした。

急性呼吸器感染症(ARI)に関する検査状況(2025年8月から2026年7月)

▶ 2025年4月7日から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。2025年8月から2026年7月までにARIサーベイランスとして横浜市内のARI病原体定点(9医療機関)から検体が提出され、横浜市衛生研究所で検査を実施した検体の病原体検出状況をまとめました。

主な結果 ▶ ARIサーベイランス病原体定点ウイルス調査(2025年第32週～2026年第31週)では1380件を検査し、インフルエンザウイルス 367件(26.6%)、新型コロナウイルス 134件(9.7%)、RSウイルス 54件(3.9%)、パラインフルエンザウイルス 80件(5.8%)、ヒトメタニューモウイルス 72件(5.2%)、アデノウイルス 51件(3.7%)、ライノウイルス/エンテロウイルス 311件(22.5%)の計1069件(77.5%)が検出されました。
▶ ARI検体のウイルス陽性率では、2025年8月から9月まで新型コロナウイルスは毎週検出され、**第36週には陽性率50%を超えました**。一方で、2025年10月以降インフルエンザウイルスの陽性率は上昇し、**2026年4月まで継続して検出**されました。

遺伝子組換え食品の検査結果(令和8年度)

▶ 遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。横浜市では平成13年度から、安全性が未承認の遺伝子組換え食品が市内に流通していないか、また、適正な表示が行われているかを検査し確認しています。

主な結果 ▶ **安全性未承認の遺伝子組換え食品の定性検査**として、トウモロコシ加工品 10検体及びコメ加工品 10検体を検査した結果、いずれの検体からも検出されず、**違反検体はありません**でした。